

平成 29 年度中濃圏域障がい者自立支援推進会議「就労・雇用支援部会」
中濃圏域障がい者就労当事者支援セミナー

【支援者】グループワーク

[1] グループ

<当事者の思いに沿う支援について>

・就労継続支援A型事業所での問題点

一般就労に向かっていく中、様々な障害種別があるが一番悩んでいる障害種別が精神障害。A型事業所と言うことで、どうしても生産効率・出勤率を勘案していかなければならない。その中で、その日その日の調子によって、出勤状況の変化がある精神障がい者への支援が課題である。本人を認めて行きたいが、事業所に来れるか？来れないのか？・戦力としてカウント出来るのか？の狭間で葛藤がある。

また、様々な研修に参加しスキルを積んでいる職員と、研修等に参加しない（参加できない）職員との間で、関わり方のスキル・捉え方・意識にズレがあり、支援者の間における意識統一に困難が生じることがある。例として、障がい特性ではなく、本人の甘えとの感覚が抜けないが見られる。

・相談支援事業所としての問題点

モニタリングの期間が介護保険と比較すると長期間。働き出して悩みが出てきた際に、敷居が高く、相談しにくいと訴えてくることが見られる為、そのような問題点の把握に苦慮するケースが見られる。

・特別支援学校

進路指導として、一般企業への就職と福祉就労・生活介護の利用とで役割分担をしながら生徒の支援に当たっている。学校と言うこともあり、本人の希望も大切であるが、家族との関係性にも留意している。

・事例相談

特別支援学校高等部・訓練校卒業後イオンで就業。2年前に母親が死去。その後より、物を拾う行動が出てきている。（廃品など）地域住民との間でトラブルが見られるようになり、各務原で入院するが1週間持たず岐阜の病院に転院。（統合失調症との診断）最近では症状が落ち着いて来ており、出口支援を考えて行く時期。今後の支援のあり方について。

（グループワーク）

他機関との連携が重要となってくる。障がい者就業生活支援センター・機関センター等横の連携を持ちつつ、情報共有しながら支援に当たっていくと良いのではないかと。

本人の訴えの中で、症状なのか性格によるものか判断しにくい場面もあり、そのような支援に

当たっては、本人の情報把握が重要となってくる。

- ・関わり方全般として

利用者本人とラポートが十分取れているか、取れていないかで、とっかかりとなる立ち位置が違ってくる。生活・就労面共に、機関通しの横の連携が重要となってくる。また、チームとして動くことが多いため、支援者が同じ方向を向きつつ支援に当たって行くことが望まれる。

平成 29 年度中濃圏域障がい者自立支援推進会議「就労・雇用支援部会」
中濃圏域障がい者就労当事者支援セミナー

【支援者】グループワーク

[2] グループ

<当事者の思いに沿う支援について>

自己紹介

りあらいず：郡上の多機能型事業所。A、B、生活介護を展開している。

ヒロボー関：A型事業所で生活支援。福祉での経験は28年。就労継続は初めて。サビ管の研修に岐阜での申込みが間に合わず、山形県で申し込むも受講出来なかった。精神障害の方の就労支援の困難さを感じている。

中部学院大 学生：福祉科で社会福祉士、精神保健福祉士のコース。就労支援に興味がある。

中濃県事務所：関市、美濃市、郡上市の事業所を訪問。当事者の話しを聞く機会はほとんどなく貴重な機会。

そよかぜ：以前は一般企業で勤務。2年前に友人からの誘いで現職に就く。

ひまわりの丘：就労支援をしていて、本人の思いに沿う支援が大切であると感じると共に困難さを感じる。今回のGWで皆さんからも意見を伺いたい。

グループワーク

りあらいず：A型事業所で就労支援をしているが、最大の課題と感じるのは、精神障がいのご利用者様の体調で作業が出来ないことがあること。本人より「辛い。」「えらい。」など発信がある場合、休息をとってもらっているが、生産性をあげるよう国からの指導もある。社長からも、ご利用者様が大変な時には手を差し伸べるように言われているが、ジレンマを感じる。

事業所の3分の2が不安定で作業から離れる時間が多く、就労時間内働けるのが3分の1程度。事業所としての対処策として、よく仕事出来る人の隣りに座っていただくことにしている。他者からも「寝ている人、休憩している人と給料が同じなのか？」との不満に繋がると、本人も居場所がなくなる。

また、薬の服薬もこちらが心配になるほど頓服薬を服薬される方も多く、医療機関で処方されているとはいえ、薬との付き合い方は精神のかたの永遠の課題である。

精神の方は、高学歴で真面目な方が多い。頑張りすぎる方も多く、今日の話しでも完璧な母親でありたい気持ちも分かるが、ありのままで良いと感じる。

中部学院大 学生：事業所見学や、ボランティアで就労継続の事業を訪問した。その中で感じたのは、寝てしまう人、何もしていない人もいたが、てきぱきと仕事をこなす人もいた。何故、一般就労出来ないかと不思議に思った。大切なのは、企業側の理解であると学んだ。そのためには支援者が本人を支援していく中で、本人を

理解し、会社側に伝えて行くことが必要であると感じた。

中濃県事務所：事業所の話しを聞くことはあるが、当事者の話を聞く機会がない。今回は良い機会となった。体調不良や、服薬で作業中寝てしまう人の対応などは、事業所からよく質問として出される。しかし、今回、中部学院大学の学生さんから「てきぱき仕事をする利用者さんは、なぜ一般就労に就職できないのか？」との質問があったが普段、困っていることの相談が多い中、新しい視点の話であった。

そよかぜ：私の事業所でも同じ課題がある。服薬による睡魔。朝、起きることが出来ず欠勤、作業中に眠くなる等は精神障害の方には多い。寄り添う支援を行うこと、「がんばって。」とは言わないことなどのルールは事業所内にある。どのご利用者様も自分を見てほしい認めてほしいと思っている。ご利用者様は、お金がほしいとの思いと、体調が悪い時を理解して欲しいとの二つの気持ちがある。当事業所では、9月から日給制を導入。出勤できれば、1日300円の日給を支払い、それ以外に行う作業によって60円、90円、120円と工賃を時給とし各自の能力に合わせて支払っている。本人達の励みや目標になっている。また、非常に厳しいが準備が出来た方は、A型に送り出すことも考えている。

ひまわりの丘：各事業所の話しを聞き、気分の落ち込み、服薬の副作用、その対処方法などよく見ており、本人の苦しさや辛さ、その時々のおいに沿ってくださっている支援者が多いと感じる。反面、就労継続に支援者として仕事をさせなければならない、生活を正さなければならない、一般へ向かうよう支援しなければならないなどの使命を全うすることが、本人の思いと違っていることもあることに支援の困難さを感じている方が多い。そんな中で、少し待つ、それを積み重ねることが必要であることをどの事業所も体験として大切であると感じている。支援者も困難であり、当事者も困難であると感じながら、講師の浅野先生の話しにもあった知ること、理解することから始まり、一緒に考えていく姿勢が基本ではあるが、大切であると再認識した。

平成 29 年度中濃圏域障がい者自立支援推進会議「就労・雇用支援部会」
中濃圏域障がい者就労当事者支援セミナー

【支援者】グループワーク

[3] グループ

<当事者の思いに沿う支援について>

A型事業所で働く人は一人暮らしの人が多く、しっかりと仕事ができる人、生活が不規則となり肥満、金銭の管理が十分に行えない人など自立の良し悪しが生活面に表れる。

安易に携帯電話番号、住所などを人に教えないなどをはじめとして、事業所内では認めていない事など、プライベートな時間でのことは気を付けることができない。

地域の理解が低いなか周囲の支援が大切と考える。しかし、A型事業所として関われる時間が確保できないことが現状である。

利用契約に当たっては、本人、支援者側の双方が「障害を理解しあっていること」を基本として行っているが、結果的には必ずしも合致した結果とならないことも多い。また、核家族の問題も今後の一つの課題となっている。

B型事業所としての良さを生かす支援を心がけている。一人ひとりの状況に合わせて作業内容、作業時間など考え、本人の居場所を確保する。しかし、居心地がよく過ぎて次にステップアップできなくなってしまうようにすることも同様に考えている。

精神障がい者と知的障がい者の作業について、同じ場所で行うか、別々の場所で行うかは、朝出勤してきた状態で作業場所を工夫する。また、作業に取り組んでもからも業況が良くない場合は変更を行う。

平成 29 年度中濃圏域障がい者自立支援推進会議「就労・雇用支援部会」
中濃圏域障がい者就労当事者支援セミナー

【支援者】グループワーク

[4] グループ

<当事者の思いに沿う支援について>

笑留

定員の半分以上が精神障がいを持つ利用者。周囲の利用者をよく見ており、影響を受けやすい。言い方に留意しないと、アドバイスしたつもりが責められたと誤った捉えられ方をしてしまう。言葉選びが難しい。

病気か性格によるものかわからなくなり、対処が難しい。支援者としてストレスを受けている。

DAI

働くためには自己中心的に物事を考えていてはいけないことを、伝えていく必要がある。

同じく事業所は、半分近い数の方が精神障がい者の方である。

関特支

精神障がいを隠して入学する学生がいる。周囲に溶け込めず留年するケースがある。

関特支は肢体不自由の学生を受け入れているため、学業重視していることもある。そのため、遠方より通学する学生もいるが、卒業後の進路相談が難しい。

教員も、精神障がいに対するノウハウを知らない。

ひまわり

「どうにかしてほしい」と相談を持ちかけられるが、自信の求める回答でないと受け入れてもらえない。そのため、「どうしたいのか」を本人に答えてもらうようにしている。全て支援者が答えを出さなければいけないものではないと思う。

平成 29 年度中濃圏域障がい者自立支援推進会議「就労・雇用支援部会」
中濃圏域障がい者就労当事者支援セミナー

【当事者】グループワーク

[5] グループ

○自己紹介

○当事者の話を聞いて質問したいことなど

- ・ すいせいは、電話をして話を聞いてくれるようでいいな。話をきいてもらえるのですか？
→（当事者から）一人暮らしの寂しさから、電話をしていた。掛けすぎていたから、「相談だけにするように」と言われた事がある。
スタッフとも友達、という関係が出来てきた。
電話よりも、訪問の時に、色々と話している。
→慈恵に入院していた事がある。訪問した方がいいとなり、訪問してもらっている。
- ・ 慈恵病院の抱えている生活支援センターが、「すいせい」
「ピアサポートグループすまいる」は「すいせい」の中で、登録者の中で集まって出来ているグループです。
長期入院の方の退院促進のための活動もしている。
- ・ 慈恵病院に掛かってないとダメですか？
→掛かってなくても、大丈夫とのことでした。
- ・ 「すいせい」にはどれぐらい行っていますか？
→行事が月に 2 回はあるので、2 回は行っている。
→だいたい土曜日の午後、毎週まではいかないけど、3 回ぐらいはなにかしら行事があるので行っている。
- ・ 当事者の方の話に、「怠けなのか、病気なのか分からない時がある」という言葉に共感した。
周りの人には分からない苦しみ、うまく説明出来ない、同じ思いをしている人がいる。
親近感を感じた。
- ・ 自分と同じ思いをしている人もいそうな気がした。
- ・ 今は、この 1 年調子が悪くって休んでいたけど、4 月からピアサポートを再開します。

平成 29 年度中濃圏域障がい者自立支援推進会議「就労・雇用支援部会」
中濃圏域障がい者就労当事者支援セミナー

【当事者】グループワーク

[6] グループ

<自身の就労のこと、生活のこと、悩みなど、自由討論>

- ・最近忙しいためか、イライラしてしまうことに対して悩んでいる。イライラしてしまうと自己嫌悪に陥る。
- ・自分が思っている事（業績につながると思う改善点、障がい者雇用について）を会社には積極的に伝えている。要望がすべて通るわけではないが、話を聞いてくれる環境ではある。
- ・工作中的クレームについて、どう対応したらよいかわからなくて困る。「上司に聞いてください」と伝えている。
- ・12年継続して勤務している。イジメを受けて辛い時もあったが、支援機関に相談して会社との調整をおこなってもらい、部署を変えてもらったことがある。
- ・以前の就労先は、通勤手当が出ないことや人間関係の問題があつて退職した。現在は自宅からも近い職場で、仕事内容も人間関係も問題なく、楽しく過ごしている。
- ・最近携帯に迷惑メールが大量に入ってくる。会社の人や相談員に相談し、削除の仕方を教わっている。
- ・現在の就労先で仕事をして6年がたつ。給料から家に生活費を入れており、とても充実した気持ちである。
- ・就労している事業所の移転に伴い、通勤が困難になるために退職して他の事業所に行くことに決めた。移転の話聞いた時には、どうしたらいいんだろうと悩んだが、相談員と相談しながら最善の道を選んだつもりである。

【まとめ】

自分の考え・悩みなどを積極的に周囲に発信できる環境にあることが、当事者本人達の精神の安定と就労のモチベーションにつながっている。